



2013.5.19No.51

結  
y u i

発行「憲法9条の会つくば」  
〒305-0005  
つくば市天久保 1-10-121-401  
TEL.080-5888-7824  
Fax 029-856-2286  
<http://peace.arrow.jp/tsukuba/>



5月3日憲法記念日に水戸千波湖畔はなみずき公園で行われた2013 憲法フェスティバル、総参加者数は約1400名、つくば地区からは「9条つくば」から20名、「荻崎9条」から4名の計24名+代表と実行委員=26名でした。この数年間でつくば地区の参加者は最多となりました。

## 憲法フェスティバル2013



今こそ「平和憲法擁護」で立ち上がり  
憲法改悪の企てを阻止しよう！

### 96条、変えさせてはならない！

広場の企画は、「9条の会交流」の他に、TPP、音楽広場、ママカフェ、アベノミクスと消費税、若者なう、Whatsえん罪、No nukes WORKSなどがあり、パネルでは「憲法9条改正を考える」「原爆と人間」「飯館村」がありました。

模擬店は書籍（実行委、茨城センター合唱団）、焼きイカ・水餃子他多種（日本国民救援会）、ケーキ・お餅他（那珂9条）、赤飯・いなり他（幸の実園）、沖縄物産・おにぎり他（新日本婦人の会茨城）、赤飯・カレー（茨城県母親連絡会）、焼きそば（県商工団体連合会）、生ビール（茨城自治労連）、震災復興支援物資（気仙沼産、東海産廃焼却施設反対住民の会）、脱原発ステッカー（茨城医労連）、健康チェック・カレーライス（保健生協9条の会）、お茶他（茨城コープ労組）、ニカラグアコーヒー（AALA 連帯委員会）など多くの団体がフェスティバルを盛り上げました。またフリーマーケットでの販売もありました。

中央舞台では、水戸工業高校ジャズバンド BLUE BEGINNERS、水戸藩 YOSAKOI 連などの演奏と舞踊が行われ、川柳入選作の表彰も行われました。

メインイベントの前泊博盛・沖縄国際大学教授



写真撮影：原田直国

の講演は、沖縄が先の戦争で日本唯一の陸上戦の場となり、多くの島民の血を流したこと、そして今なお日本にある米軍基地の7割を押しつけられ、危険なオスプレイがわがもの顔に飛行しているにもかかわらず、「日本独立記念」などと称して、祝賀式典を行う政府自民党とこれに同調する政党が台頭してきていることに対する国民の危機感の欠如と、9条を始め現憲法を変えさせないことの重要性を、元琉球新報論説委員長として体験した事実と現国際情勢の分析に基づき強調されました。

催しの最後に佐藤さんたちの合唱団の音頭で「ふるさと」を全員合唱し、長田実行委代表の閉会挨拶が行われ閉会となりました。（樋田）

### 日本はどこに行こうとしているのか

前泊博盛さんはその講演を、安倍政権が4月28日を「主権回復の日」として祝賀したことへの厳しい批判から始めました。この日は日本が「沖縄、小笠原、奄美大島」を斬りすてた日であり、沖縄では「屈辱の日」として意識されているからです。その後沖縄は日本に復帰しますが、日米軍事同盟の下で米国よる支配は少しも変わらない。日本は米軍基地の70%を沖縄に置いたまま。前泊さんは、こうも言っています。「安全は享受するが、危険は沖縄＝地方に押し付ける」ことが、当たり前になっているのではないかと。そしてこのことは、原発問題でも同じだと指摘、国民のいのちより、原発を守ることを重視する政治のあり方を強く批判しました。（次頁→）





最後に、前泊さんは、沖縄の人々は日本がどこに行こうとしているのか心配していると述べ、前の戦争への反省もしないうちに、新しい戦争の準備をしていると指摘、9条を含め、憲法を生かす日本でありたい！と締めくくりました。(長田)

## 9条の会テントで多彩な活動を交流

青空の下での今年の交流会、参加は14の9条の会と4つの平和の会など18団体でした。

各地の会の発足は6～8年前とほぼ同時期が多く、会員数は500名以下から800名以上と様々です。1000名を越えているところはまだなさそう。つくばが最初に1000人になりたいものです。

活動は署名行動と学習会、講演会という報告が多かったですが、講師を呼ぶのではなく自分たちでチューターを決めて学習しているという会もありました。つくばでもこれまで何度か自前の学習会を企画してきましたが、世話人の阿部さんが(今号「9条の視点から」に執筆)自民党の憲法草案をまとめて下さっているの、ぜひ学習会を実現したいと思

います。

悩みはというと、つくばと同じく「若い人たちが少ない」「活動できるメンバーが固定している」などなど。各地の会報なども交換しました。つくばの50号記念カラー版は隣りに座った牛久の方からも「いいねえ～」とほめられました。会報はそれぞれの地域柄が出ていて面白く、時事的なニュース以外にも文化的内容が多彩なところもあります。

司会はつくばの代表・樋田さんでしたが、柔らかな口調ながら要所をしっかりとまとめられ、名司会だったと思います。(穂積)



## 憲法記念日の様々な動き—2013年憲法記念日の意見広告を紹介します。

2013年5月3日 朝日新聞「女性は戦争への道を許さず、憲法9条を守ります」意見広告 ↓

5月3日憲法記念日

# 女性は戦争への道を許さず、憲法9条を守ります

意見広告

「戦争のない平和な世界にしたい」という願いは、世界中の誰もが願っています。日本国憲法は、太平洋戦争での日本軍の侵略がアジア諸国を中心に数千万人の死者・負傷者・性被害者・戦争孤児を生み出し、多くの罪なき人々に回復しがたい損害を与えたことから、こうした戦争の惨禍を二度と繰り返すまいとの反省に基づいて制定されました。

憲法は前文で「日本国民は、恒久の平和を願ひし…平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と宣言し「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」として平和的生存権を保障しています。

そして、全世界の国民の平和的生存権を実現するために、第9条1項で「戦争の放棄」を定め、いかなる紛争も武力によって解決してはならないことを宣言し、第9条2項で戦力も交戦権も保持しないことを定めているのです。憲法9条により、戦後68年間、日本は一度も戦争に巻き込まれることはありませんでした。日本国憲法は私たちの誇りであり、憲法9条は「世界の宝」です。

いま、その憲法9条が改悪の危機にあります。安倍政権は、集団的自衛権の行使を可能にし、憲法9条を改悪して日本を「戦争できる国」にしようとしています。憲法9条改悪による国防軍の創設により、アメリカを中心とする多国籍軍などへの海外派兵が可能となり、私たち日本人が、罪のない一般市民を巻き込んだ大量殺りくに直接加担することになるのです。

戦争で紛争は解決できません。戦争は癒えることのない苦痛と憎悪・暴力の連鎖につながります。戦争は、平和的生存権を侵害し、人間の尊厳を踏みにじる最大の暴力です。その暴力の矛先は、まず女性や子どもに向かいます。私たちは、憲法9条を変えて日本を再び「戦争できる国」にすることを絶対に許しません。平和を願う女性たちが、いま行動するときです。

「憲法改悪反対、9条を守れ」、「戦争反対、平和が一番」と願う私たちの意思をここに明らかにし、みなさんに、ともに立ちあがってくださるよう呼びかけます。

<呼びかけ人> 雨宮処凛、UA、澤地久枝、竹信三恵子、田中優子、湯川れい子

「戦争のない平和な世界にしたい」という願いは、世界中の誰もが願っています。日本国憲法は、太平洋戦争での日本軍の侵略がアジア諸国を中心に数千万人の死者・負傷者・性被害者・戦争孤児を生み出し、多くの罪なき人々に回復しがたい損害を与えたことから、こうした戦争の惨禍を二度と繰り返すまいとの反省に基づいて制定されました。

憲法は前文で「日本国民は、恒久の平和を願ひし…平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と宣言し「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」として平和的生存権を保障しています。

そして、全世界の国民の平和的生存権を実現するために、第9条1項で「戦争の放棄」を定め、いかなる紛争も武力によって解決してはならないことを宣言し、第9条2項で戦力も交戦権も保持しないことを定めているのです。憲法9条により、戦後68年間、日本は一度も戦争に巻き込まれることはありませんでした。日本国憲法は私たちの誇りであり、憲法9条は「世界の宝」です。

いま、その憲法9条が改悪の危機にあります。安倍政権は、集団的自衛権の行使を可能にし、憲法9条を改悪して日本を「戦争できる国」にしようとしています。憲法9条改悪による国防軍の創設により、アメリカを中心とする多国籍軍などへの海外派兵が可能となり、私たち日本人が、罪のない一般市民を巻き込んだ大量殺りくに直接加担することになるのです。

戦争で紛争は解決できません。戦争は癒えることのない苦痛と憎悪・暴力の連鎖につながります。戦争は、平和的生存権を侵害し、人間の尊厳を踏みにじる最大の暴力です。その暴力の矛先は、まず女性や子どもに向かいます。私たちは、憲法9条を変えて日本を再び「戦争できる国」にすることを絶対に許しません。平和を願う女性たちが、いま行動するときです。

「憲法改悪反対、9条を守れ」、「戦争反対、平和が一番」と願う私たちの意思をここに明らかにし、みなさんに、ともに立ちあがってくださるよう呼びかけます。

<呼びかけ人> 雨宮処凛、UA、澤地久枝、竹信三恵子、田中優子、湯川れい子



# 自由民主党

## 「日本国憲法改正草案」を読む (2012年版)



自民党作成の憲法改正草案と解説「Q&A」に目を通しました。怒りが湧き上がり、活力がみなぎる、という点では健康にも役立ちそうですし（血圧上昇には要注意）、ぜひとも一読されることをおすすめします。

この案は国民の権利より義務、責任を強調するものです。立憲政治＝権力が恣意的な支配をし、国民の基本的な人権を侵すことのないよう、国民が憲法を作って権力に認めさせ守らせる＝の意義を否定しているのです。Q&A「天賦人権論に基づく規定ぶりを全面的に見直した」にはびっくり。天賦人権説を否定しては、米国からも価値観を共有する国とみなされなくなる、と述べる論者もいるほど、世界の常識からかけ離れたものです。96条「憲法改正」発議問題にしても、権力の側が簡単に換えられるように提案すること自体、「憲法」の意味を理解していない表れです。「草案」の主な内容をみてみましょう。

### 1 国民主権、民主主義の否定

前文には「天皇を戴く国家」第1条「天皇は日本国の元首」とあります。戦前の日本に戻したいのでしょうか。現行では天皇摂政及び---公務員に憲法の尊重、遵守の義務を明示していますが、天皇摂政を削除し、憲法遵守を国民の義務にしてしまっています。新設の「緊急事態」の章では、内閣が緊急事態の宣言を発すれば法律と同一の効力をもつ政令を制定でき、「何人も、国、公機関の指示に従わなければならない」とあります。独裁政治が可能ということになります。「政党」の条文を作り「国は、---その活動の公正の確保及び健全な発展に努めなければならない」と、政治活動制限も企てています。そして、通常時の国会審議に定足数をなくしました。ごく少数の出席でも「審議終了」可能です。

### 2 平和主義の否定

戦争への反省が全く見られず、第2章の題そのものを「戦争放棄」から「安全保障」に変更。「国防軍」を設置し、「自衛」のためのみならず「集団安全保障の制裁」と称して、または「緊急事態が生じたときは在外国民の保護に努めなければならない」と、いつでもどこでも軍を派遣できるようにしています。「国は---国民と協力して領土領海領空を保全しその資源を確保しなければならない」のQ&Aの解説は「国民の国を守る義務を入れるべきという意見をこの形で入れた」です。「身体的自由」では、現行の「いかなる奴隷的拘束も受けない」を「社会的又は経済的関係において身体を拘束されない」にして、徴兵制も可能にしました。内閣総理大臣、国務大臣は現行では「文民」に限っていますが「現役の軍人であってはならない」と、内閣を軍人が独占することまで可能にしました。

### 3 基本的人権の尊重の否定

「国民は…自由及び権利には責任及び義務が伴うことを自覚し、常に公益及び公の秩序に反してはならない」「公益及び公の秩序を害することを目的とした活動…結社をすることは認められない」と、国民の人権より公益、秩序を優先させ、戦前の治安維持法まで可能になるような条文を作っています。一方、公的機関による「社会的儀礼又は習俗的行為の範囲を超えない」宗教的活動を認め、財政支出も可能としています。現行憲法は「最高法規」の章の最初の第97条で「基本的人権は人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」と述べていますが、それをすべてカットしたことに人権を守るためという憲法の意義そのものの否定が現れています。

その他、家族の扶養義務を強調する、選挙で一票の格差を問われないようにする、公務員の権利制限など、たくさん問題点があります。いくらなんでもこんなひどいものは通らないと楽観しては危険です。96条を変えて、改憲しやすい環境を作り、自分たちのこの案よりは少し譲歩してやったなどいいながら改悪していこうとするのではないのでしょうか。憲法12条「自由及び権利は不断の努力によって、これを保持しなければならない」の「努力」が今こそ必要です。皆さん、力をあわせましょう。

(阿部きよ子・のうさぎ文庫代表、9条の会つくば世話人)



当会では第1日曜日に定例署名行動、9日に西武前で9の日署名を行なっています。4月は7日アルス前にて、9日には西武前で9の日署名を行ない、5月1日メーデー、9日にも署名行動を行ないました。皆さまのご参加お待ちしております。

## 「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2013年5月9日現在  
総数 869名 (市内 614名)  
◆9条署名 5月9日現在 14,255筆

### 定例-9の日 メーデー署名



メーデーで入賞したプラカード写真

▼4月7日(日)は強風の中での署名でしたが、荒牧さんに助けられて「早春賦」など歌い、23名の通行者とホールの守衛さん1名と対話をしました。守衛さんの「今の北朝鮮は、実力がないのに空威張りし、軍にばかり金がまわって、国民は飢えに苦しんでいるところが、かつての大日本帝國によく似ている、何故あの日本の悲劇に学ばないのか」というお話が印象に残りました。

▼4月9日(火)の9の日署名には、5人が参加しました。入学式を終えたらしい制服姿のお子さんとお母さんが一緒に来られ、お母さんが署名をして下さっている間娘さんは9条チラシを熱心に読んでいました。

▼5月1日、久しぶりの青い空、少し肌寒いくらいのさわやかな空気のもと、中央公園でのメーデーには、参加者730名、40団体以上が集結しました。会からは久しぶりにKさんも参加、7名でチラシ配布と署名を行ないました。恒例のプラカード・コンテストでは、Hさんご夫婦の力作、憲法9条の会つくばのプラカードが「入賞」し、1000円をゲットしました。おめでとう!

また当会からのアピール文をデモ行進の際、アナウンスして頂きました。

「安倍内閣と自民党は、憲法を改悪し、日本を戦争ので

きる国にしようとしています。そのため自衛隊を国防軍とし、国民には国防を義務化しています。将来は徴兵制も復活するでしょう。平和憲法のもとで、日本は戦争で人を殺すことも殺されることもありませんでした。憲法の理想を実現してきたのです。子ども達が戦争に巻き込まれることのないよう、若者が戦場で人を殺さなくてもいいように、憲法改悪の企てに反対し、世界の平和に貢献しましょう。」(事務局)

### 9条カフェ in 梅園・東



「地域で9条カフェを」という声を受けて4月20日(土)梅園集会所で「梅園・東地域9条カフェ」が開かれました。21名の参加でしたが、梅園・東・稲荷前地域の方が12名、近隣の下広岡、小野川地域からも参加がありました。

カフェは2部構成で、前半は土浦市在住の清水京子さんから戦争体験をお聴きし、筑波書房から出版された『絵本の中の戦争』という本をご紹介頂きました。昔、子ども達に読み聞かせした絵本や童話が取り上げられていて、懐かしく思いました。

後半のカフェは「つくば子ども劇場」会員の9条メンバーがおいしいコーヒーや紅茶をサービスして下さい作りケーキやババロアなどお菓子も多彩に楽しみました。なごやかな雰囲気でご近所の交流が進みましたが、皆さんの話題は今焦眉の憲法改悪問題に。「こういう話ができる会が月一回位あってもいいのに」という積極的な声も上がるほど、危機感がつのっているのだと思われました。普段は区会などでも顔を合わせている方々が「9条の会」という新たな絆で結ばれたことがとてもよかったと感じました。交流会の継続を図りつつ、他地域でもぜひ開催されることを希望します。

(梅園地域賛同人・穂積妙子)



## まんがdeカフェ

### ブログ開設のご案内～若い世代との共同企画

まんがdeカフェは、茨城県つくば市周辺の漫画好きが集まるおしゃべり会です。

漫画だけでなく、好きな本を持ってくることもあり、参加者の自由な読書交流の場にもなっています。この会の主要メンバーは「憲法9条の会つくば」の賛同人です。何より「平和」を愛し、「9条」を愛し、自由な表現を愛し、日本がこれからも戦争に巻き込まれないことを強く願う面々。平和と漫画を愛する人なら、このまんがdeカフェ、どなたでも参加できます。

ブログも開設されました。ぜひ覗いてみてください。URL: <http://manga-de-cafe.jimdo.com/>

### 行動予定

6月2日(日)12:00～ 定例署名活動 アルス前  
9日(日)12:30～ 9の日署名 西武前  
19日(水)13:30～ 事務局会議 松代交流センター  
29日(土)13:30～ 小森陽一講演会 筑波学院大学大教室  
7月7日(日)12:00～ 定例署名活動 アルス前  
9日(火)12:30～ 9の日署名 西武前  
21日(日)10:00～ 「結」52号発行  
定例世話人会 並木交流センター(予定)

# 東海村の未来を考える

～いのちを守るために～

Big 対談

## 村上達也村長 & 小森陽一氏



3月30日、東海村の村上村長さんと全国「9条の会」事務局長の小森陽一さんの対談

がありました。会場は、県内各地 800 名を超える人が参加し、熱気が溢れました。つくばからは、バスでの参加を含め約 20 数名参加しました。対談内容を報告

村上さんは、東海第2原発は震災時、高さ 6.1mの防潮壁が 5.4mの津波を防いだが、わずか2日前に壁の穴が閉じられたことなどから、東海第2が過酷事故にならなかったのは「天佑」でしかなかったと話しました。そして、安倍首相は、民主党の掲げた「2030 年代の原発ゼロ」の方針が「無責任」だとして変えようとしているが、事故原因の究明が終わっていないし、被災地の救済も終わっていない。この状況での再稼働は逆に「無責任」だ、と述べました。東海第2原発の 30 キロ圏内に 96 万人が暮らしており、30 万に近い同原発廃炉署名や、22 市町村の意見書可決を、橋本県知事は無視できないはずと語りました。

小森さんは、東海第2原発をはじめとする日本の原発の危険性について村上さんからリアルに話を引き出しながら、次のことを強調しました。

「1950 年代にアメリカは、広島長崎を経験した日本に原子力発電を受け入れさせるために、アトムズ・フォー・ピース（平和のための原子力）を謳い文句とし、これに中曽根康弘議員や正力松太郎読売新聞社主が呼応した。以後、原子力発電は国策となり、政治家・官僚・業界・学者そしてマスメディアを動員し莫大な予算を使って『原発安全神話』を作りあげて来た。一昨年自民党の石破茂氏は、原発は使用済み燃料からプルトニウムを取り出して核兵器を作る手段でもあるから、原発をやめることはわが国のもつ核抑止力放棄することだから良くない、と露骨な意見を表明した。安倍氏は、改憲を公約に政権を取り、原発を再稼働させようとしている。自民党改憲草案では、憲法 9 条の、戦力を保持せず国の交戦権はこれを認めない、という部分を削り『国防軍』を持つとしている。『国防軍』と核兵器の保持はつながってくる。私たちは脱原発の運動と憲法を守る運動を結合させて取り組んでいく必要がある。」

そして、大学の講義で、「憲法を守らなければならないのは為政者か国民か？」と聞くと、「国民」と答える学生が多く、そうではなく、憲法は為政者が主権者である国民に代わって守るものだ、と近代国家の憲法の基本である立憲主義について教えていると紹介しました。

対談の中で、文学者である小森さんは、元美浦村村長の市川紀之さんが、現代詩「ついに太陽をとらえた」（関城文芸 76 号）で村上さんを歌い、村上村長がこれに答えた「脱原発への心の軌跡」（同誌 77 号、2012 年 8 月）を寄せていることを紹介しました。以下は、市川さんの詩の一部です。

- ・かの東海のむら長よ 兄の言葉は真実を語る この東海村の原発は廃炉にすべきと金では魂は売らないと
- ・ひとりの男が「死の町」といった 無能なおもねり メディアが空騒ぎを始めた

被災の人々を侮辱したと その男は大臣を辞めた  
いけにえに世論は沸き亡者どもは一息ついた

村上さんは、「脱原発への心の軌跡」の中で、ドイツと日本の違いにも言及しています。

「メルケル政権は遠く極東で起った原発事故を受けて直ちに老朽原発 8 基停止させた。その上 2020 年までに残り 9 基の全廃を決定した。原子力問題を経済や技術の問題でなく倫理、哲学の次元における思考の深さに驚く。それに較べ火の元であるこの国の体たらくを思うと情けない。」

また5月11日に、美浦村中央公民館で村上さんによる講演会が開催され、「ついに太陽をとらえた」の朗読がありました。（文責・M）

※9条の会つくばでは、夏の参議院選挙前に、改憲があからさまに叫ばれる風潮を何とか押し返したいとの思いから、県内の平和と脱原発を願う様々な団体、個人に呼びかけ、6月29日（土）筑波学院大学にて「小森陽一さん講演会」を開催することになりました。今号にチケットとチラシ同封させていただきます。皆さまお誘い合わせてぜひご参加ください。

WE LOVE PEACE

東京大学大学院教授  
**小森陽一さん講演会**

これからの日本を考える  
憲法ってなに？  
もし憲法が変わったら？！

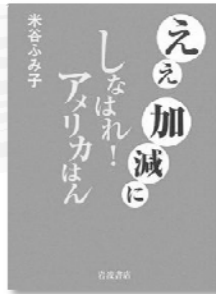
2015.6.29  
13:30 ~ 16:30

主催 筑波学院大学  
協賛 筑波学院大学  
後援 筑波学院大学  
お問い合わせ 0286-271-1111



## ええ加減にしなはれ！

## アメリカはん

米谷ふみ子著  
岩波書店

昨年11月20付け朝日新聞(夕刊)で「侮辱された者は忘れない」という米谷ふみ子氏の刺激的な題の批評を読んだ。先般のアメリカ大統領選挙で共和党ロムニー陣営は、老人、弱者、マイノリティー、女性の立場を軽視する言動を多々行った。一例では副大統領候補のポール・ライアンが、低所得者や高齢者の健康保険、年金をなくす政策について記者に「弱者の生命を危うくするのではないかと問われ、それでいいんだと答えたことなどである。侮辱された者は決して忘れないという投票行動がロムニーの敗北の原因だ、との分析である。

標記の本は、この記事で紹介されていたものである。プッシュのイラク戦争が泥沼化していた2006年、リーマンショックやオバマの登場以前に書かれたものであるが、ロサンゼルスを中心とした高校・カレッジ・UCLAなどでのアメリカの若者に向けた原爆展の体験をつづった第4章、第5章が非常に面白い。アメリカ国内での原爆展示といえば、スミソニアン博物館での展示中止事件(1995年)が記憶に残るが、その後このような取り組みが、米国に45年暮らす日本人の著者やアメリカの反戦運動家たちによって粘りよく行われていたことを知った。担い手は、60歳から80歳台の人たちである(著者は1930年生まれ、この時76歳である)。

著者のあとがきの最後の箇所を引用する。「日本ではまだ憲法で軍隊が禁じられているのだから、9条を守ることにエネルギーをつかうべきだ…アメリカでも心ある人(話をしたうちの50%)は、日本の新内閣が憲法9条を変えろと言っているのは理解できないと言っている。」著者は、現在82歳になっている。終戦時15歳であった著者の、戦争はさせないという強い信念が伝わってくる本である。(三浦)

## インフォメーション

## ◇憲法9条土浦の会・結成8周年記念講演会

日時：5月26日(日)13:30(開場)14:00~15:30

場所：土浦市民会館大ホール

講師：中村哲医師(ペシャワール会現地代表)

「アフガンからの報告—日本の平和憲法の心が生きた国際貢献」入場料：大人1000円(当日1300円)中高校生300円/連絡先：TEL029-831-6288(福田)

## ◇原発事故と健康被害講演会

日時：6月9日(日)14:00~15:30

場所：国立病院機構霞ヶ浦医療センター講堂

講師：崎山比早子氏(医学博士)「無視され続けてきたがん以外の健康被害」/参加費500円

連絡先：TEL029-823-7930(事務局)

## ◇ピアッツァ・アルテ25周年発表会

日時：6月9日(日)14:30~

場所：つくば市ノバホール

合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」(全11曲)

## ＜映画＞大林宣彦 監督作品 この空の花

戦争の体験が語り継がれることで、  
命を繋いでいく

大林宣彦は1938年広島県尾道市生まれで終戦は7歳の時となる。父は軍医であることから、戦争は身近にあったことだろう。そんな監督が、戊辰戦争から日清、日露戦争、第二次世界大戦、原爆、中越地震、3.11の現在に至る戦争と災害の歴史を、長岡という地域から見ていくことで、明治から現在の日本の有り様を考えた作品だ。また長岡であることから、長岡藩と会津藩という歴史的な関係からも福島が背景にしっかりと浮かび上がり、原発事故が「敗戦」という意味とも重なってくる。

その戦争と災害に対峙するのは、長岡の花火、空の花である。長岡の花火は、お祭りではなく、空襲や地震で亡くなった人たちへの追悼の花火、復興への祈りの花火として8月1日に打ち上げられるのだという。長岡の空襲に模擬原爆弾(広島に落とす前に同じ大きさのものを実験として落とした)が落とされたことも印象的に語られる。ストーリーは、8月1日の花火の日に高校生たちが演じる野外劇「戦争にはまだ間に合う」の準備から公演までを、長崎の被曝二世でもある女性記者が取材するという設定である。高校生達が演じる劇中劇は、長岡空襲を子ども達に伝える紙芝居活動をしている老婦人・木元リリ子(富司純子)の戦争体験を基に高校生達が作品化したものである。しかし舞台には、高校生達が語ると同時に歴史的な登場人物も現れ、戦争の歴史、花火の鎮魂の意味、戦争の逸話等が重層的に展開していく。そこにまた花火が無数に舞い上がる。この劇の作者である高校生の花は、木元リリ子の亡くなった我が子「花」としても見る事ができ、現在と過去が現実として重なり合う。私たちの現在は、このような歴史の綿々とした流れを体内に持っているのだというように。見ている者は、その混乱の中から、はっきりとしたストレートなメッセージをつかみ取ることができる。

今なら「戦争には間に合う」、敗戦後の復興は勝った国の知恵だけではなく負けた「郷」の知恵こそ学ばなければならない、そして戦争の体験を語り継ぐことで、命を繋いでいくことを、3.11以後を生きる私たちへの確かなメッセージとして「この空の花」は伝えた。(野口修)

指揮：堀部 一寿/演奏：ピアッツァ・アルテ 25th メモリアルオーケストラ

連絡先：Fax029-852-3721 TEL080-3014-1878(堀部)

## ◇9条の会・かさま 母親大会笠間 講演会

日時：6月15日(土)13:00開場 13:30開演

場所：笠間公民館大ホール

講師：伊藤千尋氏(ジャーナリスト)

テーマ：基地や原発ではなく平和と自然エネルギーを!

「戦闘」より「銭湯」を!!!/資料代：500円

連絡先：TEL0296-74-4701(田口)TEL0299-45-2936(平山・保育受付)

## ◇茨城県母親大会 in 守谷

日時：6月23日(日)10:00~16:00

場所：県立守谷高等学校

記念講演：落合恵子さん(作家・クレヨンハウス主宰)

「未来への伝言—空より高く」

問合せ：第53回茨城県母親大会実行委員会TEL029-824-8949